



## 和傘を通して伝えたいもの

岐阜市 西村 悟

堀江康子さんの和傘を通して伝えたいものを聞きました。

和傘って持つところ下で、頭を上にして置くんですってね。恥ずかしながら初めて知りました。あと長いこと畳んである和傘を開くときは油でくっついているので、ドライヤーで温めなが

ら少しずつ開けると破くことがないそうです。穴があったときは裏から同じ色の和紙を木工用ボンドではり、綿棒でサラダオイルをつけて乾かすとよいそうです。

和傘って見なくなりましてよね。江戸しぐさに傘かしばいというしぐさがあるそうです。傘を使うときに、

相手の方にしずくがつかないように、お互いに外側に傘をかき上げて通りすぎる様子を表現しているそうです。相手への思いやりですね。

そして和傘と洋傘の絶対的な違いが、紙(布)が内に畳まれるか外に畳まれるかという点だそうです。和傘は内に畳みます。それゆえ水滴は中を落ちていく。自分の服も、周りの人の御着物も汚さないという心遣い、残していきたいですね。

外観からは見えない内面の美しさ。地味なことにもコツコツと努力を重ねる。かつての日本人の姿ですね。